

令和2年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
水産部門

赤潮と向き合って生きていくー外海におけるブリ養殖ー

○氏名又は名称 鴨川 一平

○所在地 鹿児島県出水郡長島町

○出品財 経営（漁業経営改善）

○受賞理由

・地域の概要

長島町は、鹿児島県の北端部に位置し、長島・伊唐島・諸浦島・獅子島などの大小23の島々から構成されており、内海の八代海に面した各地域は静穏な入り江と早潮に恵まれていることで、多くの漁業就業者がブリ養殖業や沿岸漁船漁業に携わっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

氏は、長島町伊唐島で代々漁船漁業を営んできた家に生まれ、鹿児島水産高校卒業後は、県内の専門学校に進学したものの、実家を出てからも長期休暇等で島に戻り家業を手伝っていた経験から、父の代で始めたブリ養殖業を継承することを決意し、平成18年に伊唐島に帰島し、現在に至っている。

・受賞者の特色

(1) 赤潮被害を契機とした外海養殖の開始

氏が漁業に従事して3年後の平成21、翌22年に八代海で発生した大規模な赤潮の発生により、深刻な経営不振に陥ったが、この赤潮を契機に地域で初めてとなる外海におけるブリ養殖に取り組むこととし、試行錯誤を重ねた結果、従来の内海と外海の性質の異なる漁場を活用することによる新たな生産体制が構築できた。

(2) 人工種苗の導入による早期出荷の実現と経営の改善

赤潮被害回避を目指して、新たに人工種苗を導入した。その結果、飼育日数の短縮により、早期出荷ができるようになるとともに、ブリが品薄となる夏場の出荷も可能となるなど、通年出荷体制が構築できたことから、ブランド化や経営改善にも大きく貢献し、水揚げ金額も向上した。

・普及性と今後の発展方向

外海養殖を開始するという挑戦をし、見事に経営改善につなげた本出品財の取組は、養殖産地に付きまとう赤潮リスクを分散し出荷体制の強化につなげられるという知見を提供するとともに、人工種苗を用いることによるトレーサビリティとサステナビリティの向上についても示唆を与えるものであり、いずれもが養殖産地が実現を渴望している要素であることから、モデルケースとして多くの刺激を他の養殖産地にもたらすものと評価できる。